

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部くすり振興課	班・係	企画・振興係
TEL(直通)	076-444-3236		

KPI番号	12							
KPI名	医薬品生産金額							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B×100
	6,540億 円 <small>(国内シェア10%)</small>	6,246億 円 <small>(国内シェア79%)</small>	6,937億 円 <small>(国内シェア77%)</small>	6,609億 円 <small>(国内シェア77%)</small>	6,204億 円 <small>(国内シェア77%)</small>	2023.12 公表予定	8,000億 円 <small>(国内シェア 10~12%)</small>	-
評価指標 動向の説明	R1年次の医薬品生産金額に係る調査から生産金額の集計方法等が大きく変更され、それまでと単純比較はできないが、本県は引き続き全国トップクラスの生産拠点となっている。(都道府県別5位)							
目標達成 の見通し	要努力							
目標達成 の見通しの 判断理由	県内製薬企業では継続して積極的な設備投資が実施されており、また、本県において、バイオ医薬品等の高付加価値製品の研究開発や人材育成、海外への販路拡大等を積極的に支援していくことにより、全体として県内医薬品産業は着実に伸長している。一方で、薬価の引き下げ等による生産金額の下振れが予想より大きかったこと、R3年次までの生産金額を踏まえ、目標達成見通しは「要努力」と判断した。							
目標達成に 向けた課題	薬価引き下げ等による国内全体の医薬品生産金額の下振れがある中でも成長を続けるため、新たな成長分野への参入等の促進や付加価値の高い製品を生み出す技術力等の強化、医薬品産業を支える人材の育成等が必要。							
今後の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も成長が見込まれるバイオ分野等への参入支援や県内企業等の技術力の強化を図ること等により、付加価値の高い製品の開発・製造を支援。 ・薬事総合研究開発センター等を活用した共同研究やセミナー開催、技術実習等を継続的に実施。産学官からなる「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムにおいて、世界水準の研究開発及び医薬品産業を支える専門人材の育成・確保を推進。 ・PMDA北陸支部及びアジア医薬品・医療機器トレーニングセンター研修所の活動などを通じて、今後も高い成長が見込まれているアジア地域をはじめとした海外の医薬品市場への販路拡大を推進。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	13							
KPI名	バイオ関連商品の年間売上高							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3 (A)	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	73.6億円	78.2億円	82.6億円	95.6億円	97.2億円	97.8億円	100億円	97.8%
評価指標動向の説明	順調に伸長しており、令和4年度は過去最高の97.8億円となった。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	順調に伸長していることから、目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	更なる売上向上のため、バイオ産業を支える人材の育成や関連企業への働きかけが必要になると考えられる。							
今後の取組み	バイオ専門人材育成・確保のため、バイオ関連企業の施設見学や、セミナー、県内関連企業に対して社会人向けのバイオ専門人材育成研修を実施。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	14							
KPI名	機械・金属・電子部品の製造品出荷額							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	1兆6,251 億円	1兆6,802 億円	1兆5,844 億円	1兆4,488 億円	1兆5,581 億円	集計公表 未定	1兆6,500 億円	-
評価指標動 向の説明	R3は、R2よりも増加したものの、R1を下回った。							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	現状(R3)と最終目標に大きな差があり、目標達成にはより一層の努力が必要である。							
目標達成に 向けた課題	製造品出荷額の上昇を図るため、更なる技術の実用化・商品化への支援が必要となると考えられる。							
今後の 取組み	引き続き県内企業の競争力強化のため、ものづくり研究開発センターなどを活用し、ものづくり技術の実用化・商品化を進めて、今後の先端ものづくり産業への積極的な支援を行う。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	15							
KPI名	産学官連携によるコンソーシアム(アルミコンソーシアム及びヘルスケアコンソーシアム)に係る研究(技術)開発件数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	-	4件	7件	10件	17件	22件	15件	146.7%
評価指標動向の説明	R3年度に目標を達成した。さらに、R4年度において、アルミコンソーシアムで2件、ヘルスケアコンソーシアムで3件の研究開発を新たに採択したため、計5件の増加となった。							
目標達成の見通し	既に達成							
目標達成の見通しの判断理由	R6年度の目標件数を既に達成しているため。							
目標達成に向けた課題	生産現場や介護現場のニーズと、企業・大学等が有する技術シーズのマッチングが重要。							
今後の取組み	企業間や産学官のマッチングに向けたコーディネート活動等を継続する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	16							
KPI名	従業者1人当たり付加価値額(製造業)							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	1,090万 円	1,142万 円	1,115万 円	1,059万 円	1,157万 円	集計公表 未定	1,295万 円	-
評価指標動 向の説明	R3は、R2よりも大きく増加し、直近3年間で最も高い1,157万円となった。							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	現状(R3)と最終目標に大きな差があり、目標達成にはより一層の努力が必要である。							
目標達成に 向けた課題	従業者1人当たり付加価値額の上昇を図るため、更なる技術の実用化・商品化への支援が必要となると考えられる。							
今後の 取組み	現在、見直し内容を検討中の「富山県ものづくり産業未来戦略」のもと、引き続き県内企業の競争力強化のため、ものづくり研究開発センターなどを活用し、ものづくり技術の実用化・商品化を進めて、今後の先端ものづくり産業への積極的な支援を行う。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	17							
KPI名	年間産学官共同研究件数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	378件	386件	402件	395件	442件	418件	416件	100%
評価指標動向の説明	富山大学や県立大学が企業との共同研究を積極的に進めていることや、連携コーディネーター活動等により、平成23年度から産学官共同研究件数は増加している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和元年度より共同研究件数が僅かに減少したが、令和3年度以降は最終目標を達成している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	産学官連携コーディネーターの活動等の強化により、大学、高専、産業技術研究開発センターと県内企業とのマッチングを図ることで、共同研究数が増加基調にあり、この水準を維持することで、令和6年度の目標を達成すると見込まれるため、「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	今後も、大学、支援機関、公設試のコーディネーターによる積極的なコーディネート活動を支援し、県内外の研究者と企業とのネットワークを強化するなど産学官連携体制の強化が重要である。							
今後の取組み	「新・富山県ものづくり産業未来戦略」に基づく重点分野において、産学官連携した共同研究による新製品・新技術の開発を推進する。また、国等の競争的研究開発資金を活用した産学官連携プロジェクト数を着実に増加させる。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	18							
KPI名	国等の競争的研究開発資金の新規獲得件数(累計)							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4	(目標) R6(B)	A/B×100
	43件	44件	45件	47件	48件	49件	56件	88%
評価指標動向の説明	R4年度は経済産業省の成長型中小企業等研究開発支援事業に1件新規採択された。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	企業のニーズと大学の技術シーズをマッチングすることにより、大型プロジェクトの獲得が期待できるものの、目標の件数に到達するには、新世紀産業機構や各大学の産学官連携コーディネータのさらなる積極的な活動が必要であるため、「要努力」と判断した。							
目標達成に向けた課題	積極的なコーディネート活動を支援し、県内の研究者と企業の技術者新たなネットワークの構築・強化することが必要である。							
今後の取組み	引き続き、産学官連携コーディネート活動を支援するとともに、「若い研究者を育てる会」等の人材育成事業により、本県のものづくり産業を支える高度なものづくり人材の育成を推進する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	19							
KPI名	ものづくり人材の育成人数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	319人	406人	417人	425人	432人	456人	480人	95.0%
評価指標動向の説明	人材育成研究(若い研究者を育てる会、産業技術研究開発センターにおける研修、アルミコンソーシアムにおける人材育成研修)を通じて、高度なものづくり人材を着実に育成することができている。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・令和4年度は人材育成研究全体24名が参加し、今後も同程度の参加が見込まれるため、「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・本県のものづくり産業を支える高度なものづくり人材の育成に向けて、今後も、若い研究者を育てる会や産業技術研究開発センターと連携した人材育成研修等を実施することで、高度なものづくり人材の育成を目指す。その際、ものづくり人材の育成の重要性をしっかりと県内中小企業にPRし、参加する企業数を一層増やす活動が重要となる。							
今後の取組み	・若い研究者を育てる会や産業技術研究開発センターと連携してもものづくり人材の育成の重要性を県内中小企業にPRし、人材育成研究参加者数の増加を目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部地域産業支援課	班・係	地域産業活性化班
TEL(直通)	076-444-3249		

KPI番号	20							
KPI名	県内中小企業(製造業)の従事者1人あたりの付加価値額							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	965万円	986万円	926万円	886万円	961万円	R6年 公表予定	1,198万 円	-
評価指標動 向の説明	基準年より、付加価値額、従業員数ともに減少傾向にある。 なお、R3より算出根拠となる統計調査が変更となったため、経年比較には留意が必要である。							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	目標達成には付加価値額の増加が不可欠であるが、新型コロナウイルス感染症等の影響からは回復傾向にあるものの、物価高騰等の影響が懸念されることから「要努力」と判断した。							
目標達成に 向けた課題	生産性の向上を含む中小企業の課題解決に向け、県の支援情報や、相談窓口となる中小企業支援センター・よろず支援拠点の知名度の向上が必要である。							
今後の 取組み	中小企業支援センターへの補助事業の継続とともに、中小企業への支援情報やよろず支援拠点の周知に努める。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部地域産業支援課	班・係	地域産業活性化班
TEL(直通)	076-444-3249		

KPI番号	21							
KPI名	首都圏をはじめとする県の中小企業販路開拓支援事業における商談成約金額実績							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	約8.9億 円	約8.3億 円/年 (H26~ H29平均) 約9.8億 円(H30実 績)	約11.5億 円	約3.0億 円	約1.9億 円	R6年4月 公表予定	約8.5億 円/年 (H30~R5 平均)	-
評価指標動 向の説明	新型コロナウイルスの流行により全ての商談会が中止となった影響等により実績額が大幅に減少した。							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	R2、R3において新型コロナウイルスの流行に伴い商談会が中止になるなど厳しい状況に置かれ、実績が下がったため「要努力」と判断した。							
目標達成に 向けた課題	県内中小企業が支援策を十分に活用できるよう、より一層広報活動に取り組むとともに、支援企業が効果的に技術や製品の売り込みができるようきめ細やかな指導をすることが必要である。							
今後の 取組み	引き続き商談会開催等に関する補助事業を通じて中小企業の販路開拓を支援する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部地域産業支援課	班・係	地域産業活性化班
TEL(直通)	076-444-3249		

KPI番号	22							
KPI名	海外展示会・見本市出展企業数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	—	—	—	—	21事業者	15事業者	60事業者	25.0%
評価指標動向の説明	・新型コロナウイルス感染症の影響により、海外への渡航が難しい状況が続いているが、展示会・見本市に出展する事業者もあり、コロナの収束で増加が期待できる。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	・新型コロナウイルス感染症の拡大が収束し、入国制限や行動制限が緩和されれば出展企業数の増加が期待できる。							
目標達成に向けた課題	・新商品開発や海外販路開拓、伝統工芸技術を活かした新分野進出等を支援するとともに、伝統技術の継承、後継者の育成・確保をする必要がある。							
今後の取組み	引き続き令和5年度当初予算に盛り込んだ事業の実施を推進していくとともに、伝統工芸の新たな販路開拓と伝統技術の継承・後継者育成を図る施策を検討していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部商工企画課	班・係	デザイン・クリエイティブ産業振興班
TEL(直通)	076-444-3245		

KPI番号	23							
KPI名	「富山プロダクツ」選定商品数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	288件	318件	335件	358件	376件	387件	400件	96.8%
評価指標動向の説明	富山プロダクツの認知度の高まり等により、順調に推移している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	順調に推移しており、目標は達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	なし							
今後の取組み	県内事業者への周知や製品開発支援を通じ、目標の早期達成にむけ努力していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 立地通商課	班・係	物流通商班
TEL(直通)	076-444-3400		

KPI番号	24							
KPI名	海外販路開拓に関するサポート件数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	96件	108件	112件	128件	129件	191件	110件	173.6%
評価指標動向の説明	円安や新型コロナウイルス感染拡大の影響がある中、R4.10にホーチミンサポートデスクが開設されたこともあり、アジア地域を中心に海外展開に意欲・関心のある県内企業等からの相談は多く、サポート件数は191件だった。							
目標達成の見通し	既に達成							
目標達成の見通しの判断理由	H30年度より富山サポートデスクでの機能拡大・拡充が図られ、R4にホーチミンサポートデスクが開設されたほか、県内企業からのアフターコロナを見据えたサポートが必要とされる見込みが高く、目標件数に達したため、すでに達成とした。							
目標達成に向けた課題	県内企業等の海外展開を後押しするため、ジェトロや(公財)富山県新世紀産業機構などとも一層の連携を図りながら、サポートを行っていく必要がある。							
今後の取組み	R5.7にベトナムのハノイに「富山デスク」を開設したこと等を踏まえ、過去最高の件数となった令和4年度の実績をさらに上回る220件のサポートを目指し、ジェトロや(公財)富山県新世紀産業機構などとも一層の連携を図り、県内企業の海外販路開拓を支援していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部立地通商課	班・係	企業誘致係
TEL(直通)	076-444-3244		

KPI番号	25							
KPI名	企業立地件数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	58件	70件 (H27~ H30平均 61件)	71件	60件	60件	62件	68件	91.1%
評価指標動向の説明	H28年から企業立地件数は順調に伸びてきた。R4年度は企業の国内での設備投資意欲が高まっており、立地件数は62件であった。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	県内において、複数市町村で大規模な企業団地の造成が進んでおり、企業立地件数の増加が見込まれること、R4年度達成率が91.1%であったため、達成可能とした。							
目標達成に向けた課題	さらなる企業立地を推進するため、市町村とも一層の連携を図り、企業誘致活動を進めていく必要がある。							
今後の取組み	今年度当初予算に盛り込んだ事業を着実に推進していくとともに市町村との連携を密にし、企業への誘致活動を推進する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 立地通商課	班・係	企業誘致係
TEL(直通)	076-444-3244		

KPI番号	26							
KPI名	特定業務施設整備計画認定企業における認定件数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	15件	18件	22件	26件	32件	34件	51件 (H27~ R6累計)	66.66%
評価指標動向の説明	R5.3.31までに31社34計画の施設整備計画を認定した。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	認定数を増やすため、企業誘致PR用リーフレットの作成及び配布、大都市圏での企業立地セミナーを実施している。テレワークの普及等により地方移転を検討する企業も増えており、達成可能とした。							
目標達成に向けた課題	さらなる企業の本社機能の移転や拡充を促進するため、市町村とも一層の連携を図り、企業誘致活動を進めていく必要がある。							
今後の取組み	引き続き、令和5年度当初予算に盛り込んだ事業を着実に推進していくとともに市町村との連携を密にし、企業への誘致活動を推進する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部労働政策課	班・係	雇用推進班
TEL(直通)	076-444-4558		

KPI番号	27							
KPI名	若者の就業率(15~34歳の人口に占める就業者の割合)							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	64.1% (H27)			66.1%			64.8% 以上	102.0%
評価指標動向の説明	H27に比べ、就業率は上昇し、目標とする64.8%に達している。							
目標達成の見通し	既に達成							
目標達成の見通しの判断理由	既に達成しているため。							
目標達成に向けた課題	令和2年度に目標は達成したものの、就職を希望しながらも未就職のままの方や、就職後、短期間で離職している方が存在することから、目標値は据え置きながらも、よりきめ細かく質の高い就職支援が必要である。							
今後の取組み	引き続き、ヤングジョブとやまにおいて合同企業説明会を実施し、求職者と企業のマッチングの機会を増やすとともに、求職者のニーズに応じたカウンセリングやセミナーを開催し、若者の就業支援や職場定着に取り組んでいく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部農林水産企画課	班・係	企画班
TEL(直通)	076-444-3368		

KPI番号	28							
KPI名	富山県の農業産出額							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B×100
	661億円	651億円	654億円	629億円	545億円	R5. 12月 頃公表予定	658億円 (R8)	-
評価指標 動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の農業生産額は、米が69%を占め、稲作を中心とした農業生産構造となっている。 ・近年は、全国的な米消費量の減少により、主食用米の生産面積が減少傾向となっていることやコロナ感染症拡大による需要の減少のため、目標どおりに農業産出額が増加していない。 ・畜産については、豚熱等の影響により経営を中止した農場があるなど、産出額は減少している。 							
目標達成 の見通し	要努力							
目標達成 の見通しの 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・米については、1等比率は北陸で最も高いことや、「富富富」の新たな生産販売戦略に基づき、中生品種の大宗を占める品種となるよう、栽培面積の拡大を目指すなど、富山米の品質向上・ブランド化の取組みを進めており、米の相対取引価格が上昇傾向にあること。 ・園芸では、リーディング経営体への重点指導により品質・収量の改善を図っていることや、水田汎用化の基盤整備を進めており収穫等の労働力不足に対しては、農業支援サービスの活用に向けた実証を進めていること。 ・畜産については、豚熱や、高病原性鳥インフルエンザの影響が懸念されているが、施設整備や畜産物のブランド化が着実に進展していること。 <p>以上のように、施策の効果的な展開に努めているところであるが、米価の低迷に伴い農業産出額が減少しており、目標達成には更なる努力が必要である。</p>							
目標達成に 向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・米については生産拡大のための主食用米の需要拡大。 ・園芸については、気象変動においても品質・収量向上が可能となる栽培技術の向上。 ・畜産については、産地競争力の強化のための畜産物のブランド化。 							
今後の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・米の国内・海外における販売力の強化や米粉利用の拡大推進、園芸作物のマーケットインの考え方に基づく園芸の生産から販売までの一貫した取組み、普及指導員の指導力向上や試験研究の加速化、農業従事者の高齢化に対応した農業人材の確保。 ・農産物全般について、スマート農業技術等のイノベーションによる生産性の向上、高品質化に向けた取組み。 ・畜産経営の規模拡大を進めることや、酒粕給与による「とやま和牛」や県産米を給与した「とやまポーク」のブランド化を図ること。 ・以上のように、令和4年3月に改定した「農業・農村振興計画」に基づいた施策を着実に推進するとともに、国、市町村、JA、生産者組織等の関係団体と連携を図り、農業産出額の拡大を目指す。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部農業経営課	班・係	経営体支援係
TEL(直通)	076-444-3266		

KPI番号	29							
KPI名	新規就農者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	69人	63人	63人	80人	61人	84人	120人以上 (R8)	70.0%
評価指標動向の説明	・県内の新規就農者数は、景況の影響は受けるものの、近年は年60人から80人の間で推移している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・「とやま農業未来カレッジ」における通年研修や就農支援情報の提供の強化、就農時の農業機械等への整備支援などの取り組みが新規就農者の確保に繋がっていることに加え、県内各地域で就農希望者を確保・支援する取組も始まっていること、就農コーディネーターを配置したこと、これらの取組を連携・強化させていくことから、目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・より多くの新規就農者の育成・確保に向け、とやま農業未来カレッジ等の研修内容の強化だけでなく、園芸産地等における新規就農者の受入体制の構築、カレッジと地域が連携した研修体制の構築などを進めていく必要がある。							
今後の取組み	・「とやま農業未来カレッジ」では通年研修生の定員拡充や園芸での経営を目指す「2年目コース」設置の準備を進めているほか、就農コーディネーターによる地域と連携した相談対応の強化、担い手と就農希望者との第三者継承のマッチング、農業の魅力発信など担い手確保対策を充実に努める。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部農業経営課	班・係	経営体支援係
TEL(直通)	076-444-3266		

KPI番号	30							
KPI名	経営面積50ha以上の農業経営体数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	116経営体	128経営体	132経営体	148経営体	153経営体	160経営体	200経営体	80.0%
評価指標動向の説明	・規模拡大を目指す経営体に農地が集積され、生産性や所得向上を目指す大規模経営体数が増加している。 (R8)							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・農地中間管理事業による農地集積・集約化への支援、経営面積の拡大等に必要となる農業機械・施設等の導入に対する支援等により、担い手への農地集積と経営規模の拡大が進んでいることから、目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・経営規模拡大を図るためには、農地中間管理機構等による農地集積、経営規模拡大や生産性の向上のために必要な農業機械・施設の整備、大規模法人の雇用従事者の確保などを一層進める必要がある。							
今後の取組み	・引き続き、農地中間管理事業による農地集積・集約化、経営体の経営面積の拡大等に必要となる農業機械・施設等の導入補助、就農希望者とのマッチングなどの支援に取り組む。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部 農村振興課	班・係	農村活性係
TEL(直通)	444-3381(3965)		

KPI番号	31							
KPI名	6次産業化の販売額							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	115億円	120億円	109億円	99億円	104億円	R6. 6月頃 公表予定	150億円 (R8)	-
評価指標動 向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少傾向にあったがR3年度は増加。 ・全国では、H29:23,315億円→R3:22,844億円。 ・直近の報告値はR3のもので、前年度と比較すると、農業経営体による農産物加工や農産物直売所の売上金額、農家レストランの売上金額は増加している。 							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	・販売額は増加しているが、新型コロナウイルス感染症の影響が残っており、目標達成には努力を要すると見込まれるため。							
目標達成に 向けた課題	・市町村と連携した「6次産業化市町村戦略」に基づく6次産業化の推進をはじめ、農商工連携や地産地消など、関連施策と連携した推進が必要。							
今後の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所やネット販売、デジタル技術の活用への取組など、新たな価値観への対応強化。 ・地域食品産業連携プロジェクト推進事業(地域の農林水産物の資源の有効活用を目指し、地域内の食と農にかかわる様々な事業者が連携)を通して、新たなビジネスモデルの創出を目指す。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部 農村振興課	班・係	農村活性係
TEL(直通)	444-3381(3975)		

KPI番号	32							
KPI名	農村女性起業数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	183件	185件	186件	190件	191件	193件	210件	91.9%
評価指標動向の説明	・高齢化等により廃業する経営体もいるが、新規の農村女性起業者が増加しており、着実に目標に向かっている。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・起業化に必要な知識・技術の習得や補助事業支援により、農産加工等の取組みは進んでいることから「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・農村女性の起業活動に必要な知識・技術の習得、商品開発等のスタートアップや発展段階に応じた機材の導入など働く環境の整備への支援が必要である。							
今後の取組み	・農村女性の起業セミナーの開講、専門家派遣などにより起業スキルの向上、定着を進めるほか、発展段階に応じた施設整備や事業継承、起業後のネットワーク化を支援する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部森林政策課	班・係	木材利用推進係
TEL(直通)	076-444-3388		

KPI番号	33							
KPI名	県産材生産量							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	94千 ^m ³	97千 ^m ³	128千 ^m ³	128千 ^m ³	151千 ^m ³ (108千 ^m ³)	118千 ^m ³	145千 ^m ³ (R8)	-
評価指標動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・県産材利用促進条例に基づく基本計画(H29.10月策定、R4.3月改定)に沿って、路網整備や高性能林業機械の導入、主伐・再造林の推進、林業担い手の育成・確保等による県産材の安定供給体制の整備と、公共建築物の木造化等による需要拡大の取組みを積極的に進めてきたことから、素材生産量は増加傾向にある。 ・令和4年度分調査より、統計の品質向上を図る観点から、従来の丸太受入工場等への調査から立木伐採事業者への調査を行うよう改善を行った。(上記進捗状況のR3括弧値はR4と同様の調査手法による値) 							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・木材として利用可能な高齢級の森林資源が年々充実しつつあるなか、航空レーザ計測や森林クラウドによるスマート林業の推進、高性能林業機械の導入や路網整備等による生産コストの低減が図られているとともに、主伐の取組みも進みつつあることから、「達成可能」と判断した。 							
目標達成に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・2050年カーボンニュートラル実現に向け、森林資源の適正な利用や林業収支のプラス転換等を図るため、引き続き、スマート林業の推進等による生産コストのさらなる低減や、林業担い手の確保・育成を進める必要がある。 ・令和3年に公共建築物等木材利用促進法が改正されたことから、民間建築物を含む建築物一般での県産材の利用を促進し、さらなる需要の拡大を図る必要がある。 							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の当初予算に盛り込んだ事業を着実に推進していくとともに、引き続き、市町村、林業関係団体などと連携を図っていく。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部森林政策課	班・係	森づくり推進班
TEL(直通)	076-444-3387		

KPI番号	34							
KPI名	林業就業者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	456人	441人	430人	427人	427人	436人	450人 (R8)	96.9%
評価指標動向の説明	<p>・林業事業者の雇用形態は、季節雇用が主流となっているため、雇用が不安定であり、他産業に比べて高い労働災害の発生率、賃金水準の低さなどから、林業就業者数は減少している。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・林業事業者は、高性能林業機械の導入による労働安全性・生産性の向上や、通年雇用への取組みを図るなど就労条件の改善に努めており、近年の雇用条件の動向を踏まえ、目標の約97%を達成していることから「達成可能」と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・若年層を中心とした雇用者の安定的確保と定着を図るため、安全で効率的な就労環境の整備を進める必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・就業相談会の開催、将来の担い手となる県内の高校生等を対象とした林業体験の開催や「とやまの林業就業ナビ」などを通じて新規就業者の確保を図る。 ・富山県林業カレッジによる、経験や役割に応じた研修に加え、スマート林業に関する技術を組み込むなどして、現地で活用・実践できる人材を育成する。 ・県内の森林・林業・木材産業等の関係者が連携してICT等を活用した森林施業や木材生産の効率化・省力化を段階的に実証し、担い手の定着に向けた課題の解決を図る。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部水産漁港課	班・係	水産班
TEL(直通)	076-444-3293		

KPI番号	35							
KPI名	沿岸漁業の生産量							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	12,667t/ 年	24,944t/ 年	14,839t/ 年	17,753t/ 年	16,700t/ 年	19,913/ 年 (暫定)	23,500t/ 年 (R8)	84.7%
評価指標動向の説明	<p>・本県の漁業は、待ちの漁法の定置網中心であるため、魚種毎の年による漁獲量変動が大きい。</p> <p>・令和4年は、アジが988t(過去10年平均:1,910t)、ソウダカツオが419t(〃:1,140t)、サワラが251t(〃:514t)で平年を大幅に下回った。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・全国的に水産資源管理を実施しており、今後、水産資源の回復が見込まれるものの、生産量は回遊魚の来遊状況に大きく左右されるため、より一層の施策の推進が必要であり、「要努力」とした。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・回遊魚の来遊状況により漁獲量の変動が大きくなることから、その変動要因を解明する必要がある。</p> <p>・クロマグロへの漁獲規制がそれ以外の魚種の漁獲にまで過度な影響を及ぼすことのないよう、定置網からのクロマグロ小型魚の放流技術の普及等、効果的な資源管理手法の確立が必要である。</p> <p>・キジハタ・アカムツなど新たな魚種の栽培漁業の事業化に向け、引き続き、研究を推進する必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・国においては、資源評価に基づく漁獲可能量(TAC)による水産資源の管理を拡大していくとしており、本県に来遊する主要な回遊魚種についても、今後資源が増加して、本県における漁獲量は安定化すると考えられる。県においては、資源管理型漁業、栽培漁業、富山湾の海洋環境保全等にかかる施策を総合的に講じることで、漁獲量の維持増大を図る。また、漁業生産に必要な漁港の維持管理や施設整備等の支援を通じ、高鮮度で付加価値のある水産物の供給に努める。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部水産漁港課	班・係	経営係
TEL(直通)	076-444-3292		

KPI番号	36							
KPI名	漁業就業者のうち若手就業者(40歳未満)の構成割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	-	28.5%	-	-	-	-	34% (R8)	-
評価指標動向の説明	<p>・5年毎に実施される漁業センサスの数値に基づき指標を算出している。H30はH25より1.3%増加しており、漁業就業者のうち若手就業者(40歳未満)の構成割合は着実に増加している。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・とやま漁業担い手センター事業による新規漁業就業者について、令和3年度:8名のうち7名、令和4年度:9名のうち7名が40歳未満であり、今後も一定程度の若手就業者の新規就業が見込まれるため。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・漁業就業者のうち若手就業者の構成割合は着実に増加しているものの、今後とも、総合的な漁業担い手対策事業を効果的に進めることにより、若手就業者の新規就業をさらに増加させていく必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・若手就業者をさらに増やすため、高校の新卒予定者を対象とした求人等の働きかけを強化するとともに、「とやま漁業就業ナビ」(R3.2開設)への求人情報掲載や、全国漁業者就業支援フェアへの参加を通じて、県外からの若手就業者の確保にも努める。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部水産漁港課	班・係	経営係
TEL(直通)	076-444-3292		

KPI番号	37							
KPI名	県産6魚種及び栽培漁業対象種の産出額(税抜)							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	39億6900万円	36億8700万円	39億3800万円	33億5600万円	35億600万円	R6年6月公表予定	53億1100万円	-
評価指標動向の説明	<p>・ホタルイカ、シロエビ、高志の紅ガニ、ブリを中心として「富山のさかな」のブランド化を推進するなど、「富山のさかな」の知名度や評価は着実に向上しており、H28、H29は産出額が増加傾向にあったが、H30以降は一部の魚種の漁獲量減や新型コロナウイルスによる需要の低迷等の影響もあり産出額は減少している。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・「富山のさかな」のブランド化(知名度の向上等)は進んでいるものの、産出額は漁獲量の影響を大きく受けることから、近年の漁獲状況や新型コロナウイルス感染症の拡大による需要の低迷を勘案し、目標は「要努力」とした。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・漁業収入の安定化など持続可能な漁業の確立を図るため、富山のさかながサステナブルであることの重点PRやネクストブランドを目指す栽培漁業対象種の一層の推進に取り組む必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・全国的に知名度が向上した「富山のさかな」のブランド力をより強固なものとし、一層の販路拡大を図る。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部水産漁港課	班・係	水産班
TEL(直通)	076-444-3292		

KPI番号	38							
KPI名	水産エコラベルの認証数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	0件	0件	0件	0件	0件	0件	10件	0%
評価指標動向の説明	<p>・水産エコラベルは、生態系や資源の持続性に配慮した方法で漁獲・生産された水産物に対して、消費者が選択的に購入できるよう商品にラベルを表示するスキーム。生産段階(漁業)認証と流通加工段階(CoC)認証がある。</p> <p>・県内では、漁業認証(1件、漁業者グループ)で、申請中(R5. 4月認証機関による現地審査済み)の案件があり、今年度中に審査終了の見込みである。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・サプライチェーンの起点となる漁業認証の取得が実現すれば、波及効果として、流通・加工のCoC認証の取得促進につながる可能性が高いと考えられることから、県内の漁業関係者による漁業認証の早期取得を実現することで、目標達成を目指す。</p> <p>・申請中の漁業認証について、今年度中に審査が終了し、認証取得の見込み。また、CoC認証の取得に向けた検討を進めている漁業関係団体については、今後、当該団体の支援等に取り組むことで、認証取得に繋がる可能性がある。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・水産エコラベルについては、認証された漁業による漁獲を起点として、CoC認証された流通・加工等のサプライチェーンで管理・販売された商品のみが表示可能となるため、漁業認証の取得のみでは、エコラベルのメリットである商品の差別化、付加価値向上に繋げることができない。</p> <p>・農林水産省が実施した調査[※]によると、水産エコラベルに対する消費者(12%)や漁業者(11%)の認知度は低く、エコラベルが添付された商品購入の意向については「ラベルが無いものと価格が同程度なら買う」(47%)、「エコラベルを購入の判断材料としない」とする消費者を合わせると7割を超えており、水産エコラベルの普及には、一層の認知度向上が必要である。</p> <p><※農林水産省「食料・農業及び水産業に関する意識・意向調査」(令和2年3月31日公表)></p>							
今後の取組み	<p>・審査中の案件については、追加的に要求される科学的データ等について、県から提供・助言し、認証取得を後押しする。</p> <p>・認証取得の検討を進めている漁業関係団体について、取得に向けた支援を継続する。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部 市場戦略推進課	班・係	輸出促進係
TEL(直通)	076-444-3227		

KPI番号	39							
KPI名	県内の農林水産物・食品関連事業者の輸出金額の合計							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	4.2億円	5.5億円	5.6億円	12億円	16.6億円	33.3億円	120億円 (R8)	27.8%
評価指標動向の説明	国の目標: 2025(R7)2兆円、2023(R12)5兆円 県の目標: 2026(R8)120億円							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	目標(R8)120億円に対し、R4時点で33.3億円と、今後4年間で約4倍・約90億円を増加させる必要があるため、要努力と判断した。							
目標達成に向けた課題	目標達成に向けては、輸出に取り組む事業者数の増および輸出金額の増が課題である。							
今後の取組み	「とやま輸出ジャンプアップ計画」に基づき、「とやま輸出コミュニティ」の下、先駆的な輸出となるリーディング・プロジェクトへの支援、地域商社を中心とした「輸出プラットフォーム」で商流を確立、個別事業者の取組みの発展段階に応じた支援等により輸出拡大を推進する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	知事政策局 成長戦略室戦略企画課	班・係	管理担当
TEL(直通)	076-444-9609		

KPI番号	40							
KPI名	SDGsの県民認知度							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	-	-	21.0%	35.3%	72.0%	-	90%以上	-
評価指標動向の説明	<p>・SDGs未来都市に選定されたR1年度の県民認知度が21%であり、当初は策定時の2倍以上である「40%以上」を目標としていたが、R3年度の県民認知度が72.0%で当初の目標を達成したことから、更なる認知度向上を目指し、昨年度に目標を「90%以上」に上方修正している</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	R2年度からR3年度にかけての認知度の上昇率、今後の普及啓発等の取組みを踏まえ、達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	引き続き目標達成に向けて、さらなる周知を図る必要がある							
今後の取組み	SDGs宣言の募集の継続、SDGs宣言企業間の連携促進等によりSDGsに関する普及啓発を図っていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部環境政策課	班・係	企画係
TEL(直通)	076-444-3141		

KPI番号	41							
KPI名	一般廃棄物循環利用率							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	26.5%	26.7%	26.0%	25.6%	25.2%	R6.6 公表予定	28%以上 (R7)	—
評価指標動 向の説明	・全国では約20%で推移しているのに対して、本県では25～26%で推移し、全国を上回っているが、近年は伸び悩んでいる。							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	・レジ袋削減等による容器包装廃棄物の排出抑制、使用済小型家電や店頭回収された資源物等の循環利用を進めているが、新型コロナウイルス感染症拡大のため集団回収の実施が難しい場合もあり、循環利用を一層推進する必要があることから、「要努力」と判断した。							
目標達成に 向けた課題	・プラスチック資源循環法の施行(令和4年4月)を踏まえ、プラスチック使用製品廃棄物の排出抑制、循環利用を一層進める必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を踏まえ、引き続き、集団回収や民間事業者による資源回収に取り組む必要がある。							
今後の 取組み	・市町村によるプラスチック使用製品廃棄物の分別収集・再商品化が円滑に進むよう、情報提供や技術的助言を行うとともに、集団回収、とやまエコ・ストア制度、富山県認定エコ・ステーション(資源物回収拠点)の普及拡大を図り、一般廃棄物循環利用率の向上を目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部環境政策課	班・係	企画係
TEL(直通)	076-444-3141		

KPI番号	42							
KPI名	産業廃棄物循環利用率							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B × 100
	32.8%	32.4%	34.7%	37.4%	37.4%	R6.6 公表予定	36%以上 (R7)	—
評価指標動向の説明	・近年、全国では約36%で推移しているのに対して、本県では37%と全国をやや上回っている。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・産業廃棄物循環利用率は、R3の時点で目標値を上回っており、引き続き、廃棄物の排出抑制・循環的利用についての普及啓発等の取組みを進めることにより「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・プラスチックについては、プラスチック資源循環法の施行(令和4年4月)を踏まえ、排出抑制・再資源化を一層進める必要がある。							
今後の取組み	・プラスチック製食品容器の代替容器への転換や、支援サイトの構築・運営を通じた排出事業者とリサイクル業者、プラスチック製品メーカーの新たな連携により、排出抑制・循環的利用を促し、循環利用率の向上を目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	知事政策局 成長戦略室	班・係	カーボンニュートラル推進課
TEL(直通)	076-444-9676		

KPI番号	43							
KPI名	温室効果ガス排出量の削減率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	8.7%削減 [H25比]	14.6%削減 [H25比]	18.1%削減 [H25比]	21.8%削減 [H25比]	R6年6月 公表予定	R7年6月 公表予定	53%削減 (R12)に向 けて減少 [H25比]	-
評価指標動 向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の温室効果ガス排出量は、近年減少傾向にあり、基準年度において全国の削減率(H30:11.4%減[H25比])を上回る削減率となっている。 ・令和5年3月、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、2030(R12)年度に温室効果ガスの排出量を2013(H25)年度比で53%削減する新たな目標を掲げた「富山県カーボンニュートラル戦略」を策定した。 ・国では、R3年10月、エネルギー基本計画及び地球温暖化対策計画を見直し、2030(R12)年度における温室効果ガス排出量を2013(H25)年度比で46%減とする目標を掲げている。 							
目標達成の 見通し	達成可能							
目標達成の 見通しの 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネの徹底によりエネルギー消費量が減少傾向にあること、H30年度以降に電力会社において二酸化炭素排出量が比較的少ないLNG火力発電が本格稼働していること、再生可能エネルギーの導入促進が図られていることなどから、現時点においては「達成可能」と判断した。 							
目標達成に 向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入など、県民や事業者による取り組みを着実に促進していく必要がある。 							
今後の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「富山県カーボンニュートラル戦略」に基づき、脱炭素経営の促進や富山型ウェルビーイング住宅(仮称)の普及拡大、再生可能エネルギーの最大限の導入など、各種施策を推進 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	44							
KPI名	小水力発電所の整備箇所数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	42箇所	48箇所	49箇所	50箇所	54箇所	54箇所	58箇所	93.1%
評価指標動向の説明	小水力発電所の整備箇所数については、農業用水を利用した整備を中心に順調に増加している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	整備中の小水力発電所もあり、目標は達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	小水力発電を本県の河川や農業用水路等のあらゆる地点で最大限導入するため、最新の技術・コストに基づく導入可能性の情報を把握する必要がある。							
今後の取組み	適地調査の結果等を踏まえ、整備の見込みのある小水力発電候補地を確実に整備することを目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部 商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	45							
KPI名	県内初の地熱発電所(バイナリー式発電含む)の建設							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	-	-	-	-	-	-	1 箇所以上の事業着手	-
評価指標動向の説明	本県の地熱ポテンシャルを活かした再生可能エネルギーの導入促進のため、立山温泉地域において地熱資源調査を行ったほか、調査データを民間企業に開示し第三者評価をいただいた。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	現時点では制約が多く開発は難しいものの、より精度の高い調査による地質構造の解明や最新技術の開発が進むなどの条件が整えば、開発の可能性が高まるといった第三者評価をいただいたことから、目標は「要努力」と判断とした。							
目標達成に向けた課題	現段階の技術・仕組みでは、事業性を確保できる発電規模が見込めない。							
今後の取組み	最新技術の動向も注視しながら立山温泉地域における開発の方向性を調査するほか、同地域以外においても、比較的低温の熱でも発電できるバイナリー方式の導入可能性を調査する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部労働政策課	班・係	雇用推進班
TEL(直通)	076-444-4608		

KPI番号	46							
KPI名	県内大学等新規学卒者の県内就職率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	63.3%	61.3%	60.9%	63.7%	63.4%	62.5%	67.5% 以上	92.6%
評価指標動向の説明	今年度は前年と比較して、県内4大学で上昇したが、短期大学、高等専門学校で低下した。その他の専門学校等は前年度の水準を維持している。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	前年に引き続き県内就職率が低下しており、目標達成にはより促進を図る必要があるため。							
目標達成に向けた課題	県内に在籍する学生を対象に富山県で働き暮らす魅力を伝える必要がある。							
今後の取り組み	県のTターン推進強化事業のほか、県内の各大学等で県内就職率を高める取り組みを行う。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部労働政策課	班・係	雇用推進班
TEL(直通)	076-444-4608		

KPI番号	47							
KPI名	県外出身の県内大学等卒業生の県内就職率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	17.9%	18.1%	21.4%	18.0%	21.0%	18.8%	20%	94.0%
評価指標動向の説明	前年と比較して、県内4大学のうち、県外出身者数が増加した大学において県内就職者の割合が低下した。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	R1年度、R3年度には目標を達成しているが、R4年度は再び未達成となっていることから、より一層の促進を図る必要があると判断した。							
目標達成に向けた課題	県外出身の県内大学生等に対する就職支援を強化し、富山での働き方や暮らしについての情報提供をきめ細かく行っていく必要がある。							
今後の取り組み	県のTターン推進強化事業のほか、県内の各大学等で県内就職率を高める取り組みを行う。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	知事政策局 働き方改革・女性活躍推進室	班・係	女性活躍推進担当
TEL(直通)	076-444-3328		

KPI番号	48							
KPI名	管理的職業従事者に占める女性の割合							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	7.6% (H27)	-	-	9.2%	-	-	30.0% (R7)	
評価指標動向の説明	民間事業所も含めた就業者のうち従業員における管理的職業従事者に占める女性の割合は、全国平均と比べて低い状況にある。 (R2:9.2%/全国25位(全国平均9.8%))							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	本県の女性の管理職比率は、H27:7.6%(全国44位)からR2:9.2%(全国25位)へと上昇したものの、全国平均よりも低い状況にあり、5年間の上昇率から算出してもR6の目標値に達しないため、要努力とした。							
目標達成に向けた課題	固定的な役割分担意識やアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)、インポスター症候群(過小評価)等の意識改革を更に進めていく必要がある。							
今後の取組み	官民一体となって、女性が活躍できる職場づくり、若い女性の転入促進を進めていくため、企業経営者・人事労務担当者等の意識醸成を促進するとともに、「とやま女性活躍企業」認定制度や煌めく女性リーダー塾等の周知を図り、企業や経済団体、関係機関と連携しながら、取組みを推進していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	知事政策局 働き方改革・女性活躍推進室	班・係	女性活躍推進担当
TEL(直通)	076-444-3328		

KPI番号	49							
KPI名	専門的・技術的職業従事者のうち研究者及び技術者における女性の割合							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	13.6% (H27)	-	-	13.7%	-	-	15.8%	
評価指標動向の説明	本県の専門的・技術的職業従事者のうち研究者及び技術者における女性の割合は、全国平均に比べ高い状況にある。(R2:13.7%／全国4位(全国平均12.9%))							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	本県は、専門的知識が必要とされる業種の多いものづくり産業のウェイトが高く、割合は13.7%(全国第4位)と全国平均に比べ高い状況にはあるものの、前回調査結果(H27:13.6%)からは横ばいで推移しているため、要努力とした。							
目標達成に向けた課題	引き続き、女性研究者・技術者等の育成や理工系分野の産業における女性の活躍を推進する必要がある。							
今後の取組み	引き続き、企業や経済団体、関係機関と連携しながら女性が、活躍できる環境づくりを推進していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	知事政策局 働き方改革・女性活躍推進室	班・係	女性活躍推進担当
TEL(直通)	076-444-3328		

KPI番号	50							
KPI名	男女共同参画チーフ・オフィサー設置事業所数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	213事業所	216事業所	230事業所	231事業所	229事業所	264事業所	290事業所	91.0%
評価指標動向の説明	県内事業所の役員クラスの方が、事業所の核となり女性の活躍推進及び仕事と家庭の両立支援など職場における男女共同参画を推進していただく「男女共同参画チーフ・オフィサー」設置事業数は近年増えつつある。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	事業所内における女性活躍や男女共同参画の重要性を促進するため、「男女共同参画チーフ・オフィサー」の設置を「とやま女性活躍企業」の認定要件ともしており、近年の増加数より、達成可能とした。							
目標達成に向けた課題	事業所における女性活躍の推進、引いては男女共同参画の重要性を改めて周知していく必要がある。							
今後の取組み	女性活躍を推進している事業所の取組み等を紹介するなど、女性活躍や男女共同参画の重要性を啓発するとともに、制度の周知を図り、男女共同参画を推進していただく「男女共同参画チーフ・オフィサー」設置事業数の増加を目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部商工企画課	班・係	新産業創出班
TEL(直通)	076-444-9606		

KPI番号	51							
KPI名	競争的資金(科学研究費)の獲得数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	486件	483件	518件	581件	566件	576件	2500件 (5ヵ年 累計)	-
評価指標動 向の説明	H29年度以降全国採択件数が落ち込んでおり、それに伴い県内の採択件数も減少していたが、R1年度以降は全国の採択件数が増加傾向にあり、県内の研究機関においても、500件以上の採択数を維持している。							
目標達成の 見通し	達成可能							
目標達成の 見通しの 判断理由	近年全国採択件数は増加傾向にあり、今後も現状維持されれば年間500件を超えることは可能と思われることから、既に達成とした。							
目標達成に 向けた課題	知の拠点たる大学の役割は今後ますます大きくなると見込まれることから、各高等教育機関へのより効果的な支援を推進し、魅力度向上を図り、県内企業や地域との連携強化につなげる必要がある。							
今後の 取組み	県内高校生等から進学先として選択されるよう、魅力向上と教育研究機能の充実に取り組むとともに、情報発信の強化により認知度の向上を図る。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	経営管理部学術振興課	班・係	高等教育振興係
TEL(直通)	076-444-9652		

KPI番号	52							
KPI名	県内高等教育機関における県内企業との共同研究件数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	106件	71件	81件	102件	118件	114件	110件	103.6%
評価指標動向の説明	・経済情勢や各大学等の所属教員により年度によって増減があるが、全体として増加傾向にあり、R4年度はR6目標値を上回った。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・県立大学においては近年の学科拡充により教員数が増えるとともに、R4年4月にDX教育研究センターを供用開始したことや、データサイエンスを学ぶ情報工学部の設置もR6年4月に予定されており、今後数年をかけて県内企業との関係が深化し、共同研究数が増加する可能性があることから、「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・知の拠点たる大学の役割は今後ますます大きくなると見込まれることから、県内高等教育機関へのより効果的な支援を推進し、魅力度向上を図り、県内企業や地域との連携強化につなげる必要がある。							
今後の取組み	・県内高等教育機関で構成する大学コンソーシアム富山が実施する教育連携事業や地域貢献事業、ひとづくり財団が実施する私立大学振興事業等への支援を通じ、県内高等教育機関のさらなる魅力向上に取り組む。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	経営管理部学術振興課	班・係	高等教育振興係
TEL(直通)	076-444-9652		

KPI番号	53							
KPI名	県立大学の公開講座受講者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2 (A)	R3 (A)	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A平均/B × 100
	447人	283人	306人	837人	240人	820人	340人 (R2~6 年度平均)	186.0%
評価指標動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度より、看護学部でも公開講座を実施していることから受講者数が増加している。 ・加えて、R2年度より、従来の対面型講義のみではなく、ZoomやYouTubeを活用したオンライン配信を導入したことにより、受講者数が増加している。 							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・対面実施に加え、オンライン配信を今後も引き続き実施する予定のため、目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・秋季公開講座では年度のテーマによって、受講者数にばらつきがある状態であるため、毎年一定数以上の参加者が確保できるよう、内容の充実や情報提供の強化を図る必要がある。							
今後の取組み	・学生や社会人等のニーズに即して内容の充実・改善に取り組むとともに、オンライン配信の活用など受講しやすい環境の整備、情報提供の強化を図り、幅広い受講者層の確保に取り組む。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局 観光振興室	班・係	世界遺産・ふるさと教育推進担当
TEL(直通)	076-444-4604		

KPI番号	54							
KPI名	県内に自信をもって誇れるものがたくさんあると思う人の割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	20.8%	22.1%	19.4%	22.2%	23.5%	20.6%	30.0%	68.7%
評価指標動向の説明	・R4年度はR1年度の策定時の調査結果19.4から1.2ポイント上昇したが、H30年の基準を1.5ポイント下回る結果となった。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	・目標達成率が68.7%に留まり、目標に向け、県民の地域における自然や歴史、伝統文化等に対する意識をさらに高めるため、さらなる努力が必要。							
目標達成に向けた課題	・世界遺産登録の実現に向け、引き続き、本県の提案に対し文化庁から示された課題(文化財指定や顕著な普遍的価値の検証など)の解決に着実に取り組む必要がある。							
今後の取組み	・引き続き、令和5年度当初予算に盛り込んだ事業を着実に推進し、国内外への更なる魅力発信を図る。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局ワンチームとやま推進室	班・係	地域振興担当
TEL(直通)	076-444-3114		

KPI番号	55							
KPI名	令和新時代まちづくり推進事業のモデル地域数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B × 100
	-	-	-	0地域	0地域	1地域	15地域	6.7%
評価指標動向の説明	・コロナ禍の影響下で地域の合意形成が得られず申請に至らなかったケースなどもあったが、令和4年度に1件採択。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	・令和2年度から毎年3地域程度の採択を想定していたが、目標達成に向け、令和5年度以降、当初想定を超える割合で採択件数を伸ばす必要が生じているため、「要努力」とした。							
目標達成に向けた課題	・各市町村・地域におけるニーズ・資源の一層の掘り起こしが必要である。							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度からまちづくり総合支援事業と統合し、制度内容や手続きの簡素化を行った ・各市町村へのヒアリング等を通じ、補助金制度の周知を図るとともに、随時ニーズ・資源の把握・掘り起こしに努め、採択件数の増を目指す。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部県民生活課	班・係	県民協働係
TEL(直通)	076-444-9012		

KPI番号	56							
KPI名	地域の魅力づくりに取り組むNPO法人数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	58法人	57法人	57法人	60法人	59法人	61法人	62法人	96.8%
評価指標動向の説明	・R4年度は主としてまちづくりの推進を図る活動を行う団体を新たに3法人認証し、1法人が解散したため、2法人増加した。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・地域の魅力づくりに取り組むNPO法人数は、解散する法人もあるが、増加傾向にあることから、「達成可能」とした。							
目標達成に向けた課題	・NPO法人制度に関する認知度が低いことから、さらなる周知を図る必要がある。							
今後の取組み	・引き続き設立相談会の開催等を通じて、NPO法人制度の普及啓発や法人への支援を充実させていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局ワンチームとやま推進室	班・係	地域振興担当
TEL(直通)	076-444-3114		

KPI番号	57							
KPI名	住みよさランキング(東洋経済新報社)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	50位以内に8市	50位以内に5市	50位以内に5市	50位以内に3市	50位以内に3市	50位以内に2市	増加させる	-
評価指標動向の説明	R4年度は、50位以内に2市ランクインという結果となった。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	近年、上位50位以内にランクインする市が減少傾向にあり、一層の努力が必要な状況にあるため「要努力」と判断した。							
目標達成に向けた課題	2020年から、本県に優位性のあった「持家世帯比率」が指標から外れたほか、「気候」の指標に「最深積雪」のデータが新たに加わるなど、ランキングの算定方法が従来と比較して本県に不利になっていることから、他の指標をより高めていく必要がある。							
今後の取組み	魅力あるまちづくりや地方創生の取組みにより、各指標の底上げを目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局 観光振興室	班・係	観光地域づくり推進担当
TEL(直通)	076-444-3500		

KPI番号	58							
KPI名	観光消費額 (対象: 宿泊客及び日帰り客、来訪目的: 観光及びビジネス)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	1,561億円	1,494億円	1,483億円	980億円	1,189億円	1,509億円	引き上げる	—
評価指標動向の説明	<p>・北陸新幹線が開業したH27年の観光消費額(H26比+26.5%)は前年比で大きく伸びたが、その後は増減を繰り返して推移してきた。R2年の観光消費額(R1比▲33.9%)は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、前年度を大きく下回ったが、R4年の観光消費額(R1比+1.8%)は前年比+26.9%と回復傾向にある。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・2022年(令和4年)3月には、まん延防止等重点措置が全面解除され、同年10月には全国旅行支援の開始に加え、水際措置の大幅緩和により観光需要が大幅に増加するなど、回復の傾向がみてとれるが、インバウンドは依然としてコロナ前の水準にまで戻っていないことや全国旅行支援の終了の影響等を鑑み、目標達成は「要努力」と判断とした。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・令和6年の新幹線敦賀開業、コロナ禍からのインバウンドの回復などの効果を最大限に引き出す取組みが重要であり、個人旅行者の多様なニーズに対応するための受入環境整備や質の高い観光人材の育成など、高付加価値な観光地域づくりに引き続き戦略的に取り組む必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・令和4年3月策定の「第3次富山県観光振興戦略プラン」の趣旨を踏まえ、北陸新幹線敦賀開業を見据えた戦略的なプロモーションやコアな富山県ファン・リピーターに届く効果的な情報発信に取り組むとともに、次世代の観光を担う人材の育成と地域における活躍促進等により、観光客数及び観光消費単価の向上を目指す。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局 観光振興室	班・係	観光地域づくり推進担当
TEL(直通)	076-444-3500		

KPI番号	59							
KPI名	延べ宿泊者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	3,895千人	3,780千人	3,808千人	2,228千人	2,394千人	3,067千人	引き上げる	—
評価指標動向の説明	<p>・北陸新幹線が開業したH27年の延べ宿泊者数(H26比+14.4%)は前年比で大きく伸びたが、その後は増減を繰り返して推移してきた。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、R2年の延べ宿泊者数(R1比▲41.5%)は前年度を大きく下回ったものの、R4年の延べ宿泊者数(R1比▲19.4%)は前年比+28.1%と回復傾向にある。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・2022年(令和4年)3月のまん延防止等重点措置の全面解除や10月に開始した全国旅行支援による国内旅行需要の増加等が寄与し、県内の日本人延べ宿泊者数は11月には新型コロナウイルス感染拡大前の水準を超えて回復傾向となっているが、全国旅行支援の終了の影響や今後回復が見込まれるインバウンド需要を取り込む必要があることを鑑み、目標達成は「要努力」と判断とした。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・JRや北陸三県、北経連、旅行会社等とも連携し、首都圏に加え、令和6年の新幹線敦賀開業を見据えた関西でのプロモーションの拡大や主要駅と観光地を結ぶ観光路線バス等の運行支援や商品の充実を図っていく必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・令和4年3月策定の「第3次富山県観光振興戦略プラン」の趣旨を踏まえ、北陸新幹線敦賀開業を見据えた戦略的なプロモーションや主要駅等と観光地を結ぶ二次交通の運行支援・利便性向上等により、延べ宿泊者数の増加を目指す。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局 観光振興室	班・係	観光地域づくり推進担当
TEL(直通)	076-444-3500		

KPI番号	60							
KPI名	旅行者満足度							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	74.4%	72.5%	66.4%	69.2%	71.7%	75.2%	引き上げる	—
評価指標動向の説明	・北陸新幹線の開業以降は緩やかな減少基調であったが、R4年度の旅行者満足度は前年度に引き続き3.5ポイント増加した。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・R4年度の旅行者満足度(H27比▲0.5ポイント)が北陸新幹線開業後のH27年度数値と同水準となったことやR1年度より増加傾向にあることに鑑み、目標達成は「達成可能」と判断とした。							
目標達成に向けた課題	・令和6年の新幹線敦賀開業を見据えて、個人旅行者の多様なニーズに対応するため、富山ならではの観光資源のさらなる磨き上げ、着地型旅行商品の造成などに引き続き取り組む必要がある。中でも、本県が誇る世界水準の観光資源である「立山黒部」の高付加価値化や高付加価値な観光地地域づくりに取り組み、施策をより一層推進する必要がある。							
今後の取組み	・令和4年3月策定の「第3次富山県観光振興戦略プラン」の趣旨を踏まえ、コアな富山県ファン・リピーターに届く効果的な情報発信や旅行者が満足度の高い旅を楽しめる受入環境の整備に取り組むとともに、「立山黒部」の高付加価値化の推進により、旅行者満足度の向上を目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局 観光振興室	班・係	国際観光課
TEL(直通)	076-444-8752		

KPI番号	61							
KPI名	延べ外国人宿泊者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	282千人	300千人	329千人	36千人	8千人	16千人 (2023. 9月公表)	530千人 (R8)	3.00%
評価指標動向の説明	・新型コロナウイルス感染症拡大や水際対策の影響により、外国人観光客が減少した。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	令和4年は新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光客が回復していないことから「要努力」と判断した。							
目標達成に向けた課題	コロナ禍により変化した外国人観光客のニーズに対応し、ここにしかない特別感のある観光地や魅力ある観光資源を体験できるサービス提供で戦略的なプロモーションに取り組み誘客を推進する必要がある。							
今後の取組み	・令和4年3月策定の「第3次富山県観光振興戦略プラン」の趣旨を踏まえ、受け入れ環境整備や効果的な情報発信に取り組みとともに、近隣県と連携したプロモーション活動や広域周遊ルートの形成促進に努めていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局 観光振興室	班・係	コンベンション誘致担当
TEL(直通)	076-444-4565		

KPI番号	62							
KPI名	コンベンション参加者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	93,741人	108,958 人	87,615人	8,912人	10,692人	31,117人	90,000人 (R8)	34.6%
評価指標動向の説明	R1年度からR3年度にかけては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、コンベンションの開催件数、参加者数ともに減少基調にあったが、R4年度はその影響が一定の治まりを見せ、増加に転じた。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	新型コロナウイルス感染拡大が一定の落ち着きを見せており、コンベンションの開催件数及び参加人数は増加しているものの、コロナ禍前と比較し、オンラインやハイブリッドでの開催が増えたことで、参加者の規模縮小が懸念される。							
目標達成に向けた課題	コンベンションの開催件数、参加者数の増加を促すため、北陸新幹線敦賀延伸による交通面での新たなメリット等を前面に押し出し、国際会議をはじめとしたコンベンションの誘致活動をさらに推進するとともに、受入体制の充実を図る必要がある。							
今後の取組み	「第3次富山県観光振興戦略プラン」の趣旨を踏まえ、国際会議の誘致強化と受入環境の充実を含め、コンベンションビューローや市町村、県内大学等の関係団体との連携を強化し、コンベンション誘致をさらに推進する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局 観光振興室	班・係	情報発信・誘客促進担当
TEL(直通)	076-444-3517		

KPI番号	63							
KPI名	アンテナショップへの来店者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	69.8万人	69.1万人	67.3万人	42.2万人	50.8万人	60.4万人	75万人	80.5%
評価指標動向の説明	有楽町・日本橋両アンテナショップの来店者数は、横ばいに堅調に推移してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大による休業要請や外出自粛等の影響により、令和2年3月からの来館者数は大幅に減少した。令和4年に入り感染状況が徐々に落ち着き、ワークショップや実演販売等のイベントの実施等により感染拡大前の来館者数に戻りつつある。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	H28年度に日本橋とやま館が開館して以降は横ばいに推移してきたが、R2年3月以降新型コロナウイルス感染症の影響により来館者数が大幅に減少し、その減少の影響は今後も続くと考えられることから「要努力」とした。							
目標達成に向けた課題	新型コロナウイルス感染症の長期的な影響やアフターコロナを見据えながら、首都圏における関係人口創出、観光誘客、移住促進などに繋がる展開が必要。							
今後の取組み	SNSを活用した情報発信強化や、首都圏に居ながら富山の魅力を体感できる企画やリモートに対応したイベントを開催する等、DXIによる施策を推進し、より一層の富山の魅力発信に取り組む。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部商工企画課	班・係	デザイン・クリエイティブ産業振興班
TEL(直通)	076-444-3245		

KPI番号	64							
KPI名	「越中富山幸のこわけ」商品の売上額							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	21,404 万円	22,326 万円	23,756 万円	10,092 万円	10,091 万円	16,396 万円	24,000 万円	68.3%
評価指標動 向の説明	令和元年度まで順調に売上を伸ばしていたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で、売上が激減した。令和4年度は前年度に比べ売上は伸びているものの、令和元年度の数字までには回復していない。							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	売上は回復傾向にあるものの、観光需要は、現段階ではコロナ禍前まで回復していないことなどから要努力とした。							
目標達成に 向けた課題	観光需要の回復、客単価の向上							
今後の 取組み	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う各種制限の解除に伴い、販売事業者への各種販促イベント等の周知や製品開発支援を通じ、目標の達成に向け努力していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部商工企画課	班・係	デザイン・クリエイティブ産業振興班
TEL(直通)	076-444-3245		

KPI番号	65							
KPI名	「べつばら富山」商品の売上額							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	13,022 万円	13,073 万円	11,468 万円	5,255 万円	7,294 万円	9,356 万円	16,600 万円	56.4%
評価指標動向の説明	これまで順調に推移してきていたが、R元年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けるなど販売を中止した商品もあり、特にR2年度には大幅な売り上げ減となっている。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	新型コロナウイルス感染症拡大による移動規制が緩和され、観光客の見込みは回復してきたが、目標達成には今後の需要回復に取り組む必要があるため「要努力」と判断した。							
目標達成に向けた課題	「べつばら富山」の認知度が低いことから、さらなる周知を図り、需要を促進する必要がある。							
今後の取組み	HPの更新などにより目標の達成にむけ努力していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局ワンチームとやま推進室	班・係	移住・交流促進担当
TEL(直通)	076-444-4496		

KPI番号	66							
KPI名	県・市町村の相談窓口等を通じた移住者数(学生Uターン者を除く)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	571人	726人	734人	764人	823人	892人	1000人	89.2%
評価指標動向の説明	<p>・「くらしたい国、富山」推進本部を中心に、県外からの移住促進に積極的に取り組んだ結果、県・市町村の相談窓口等を通じた移住者は、令和4年度には過去最高の892人となり、平成20年度からの14年間で6,700人を超えた。</p> <p>・また、移住された世帯主のうち、20～40代が約8割と若い世代の移住志向が高まっている。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・県・市町村の相談窓口等を通じた移住者数は、年々増加を続けていることから、目標は「達成可能」と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・本県への移住者は、20～30代を中心とした現役世代が多く、若い世代をターゲットとした情報発信やセミナーの開催等が必要である。</p> <p>・若い女性の県外流出が大きな課題となっているため、若い女性にアプローチする移住促進策の検討も必要である。</p>							
今後の取組み	<p>・移住定住促進サイトをリニューアルし、移住検討者の関心が高い情報を分析する仕組みを整備する。</p> <p>・移住相談窓口やイベント会場におけるVRの活用や、富山の交通事情や雪をテーマにした移住セミナーの開催などにより、本県にゆかりのない方にもありのままのリアルな富山暮らしの魅力を伝え、更なる移住促進を図る。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	知事政策局成長戦略室	班・係	ウェルビーイング推進課
TEL(直通)	076-444-8489		

KPI番号	67							
KPI名	「とやま移住・応援人口創出事業」への参加者数及びテレワーク・ワーケーションに係る助成事業利用者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	-	-	0人	19人	36人	84人	200名 (累計)	69.5%
評価指標動向の説明	本県への移住や二地域居住などを希望する県外在住の社会人が富山県内でフィールドワークなどを実施する「とやま移住・応援人口創出事業」の参加者数と、テレワーク・ワーケーションに係る助成事業を利用して本県を訪れる者の数は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の解除等により、増加傾向にある。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	R4年度の機構改革で成長戦略室ウェルビーイング推進課に本事業が移管されたことに伴い、これまでのような移住施策としての事業ではなく、何らかの形で富山に関わりを持ってもらうことに重点を置いて施策に取り組んでいくこととし、R4年度末をもって「とやま移住・応援人口創出事業」を廃止したが、テレワーク・ワーケーションに係る助成事業を利用して本県を訪れる者の数は増加していることから、目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	コロナ禍で働き方のスタイルが多様化する中、大都市圏のテレワーカー等に対し富山の魅力やテレワーク実施環境を発信すること等により、関係人口拡大施策に引き続き取り組んでいく必要がある。							
今後の取組み	テレワーカーやワーケーション実施者への支援・富山におけるワーケーション情報の広報、本県出身者や富山ゆかりの企業との連携を深めること等による関係人口の拡大のみならず、成長戦略のビジョン「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」の達成に向け、全庁的な取組みを推進していく。							